

ニーズにあった音楽表現の工夫 (2)

— 高齢者福祉施設での実践における学生の音楽表現の意識変化 —

樋口しずか 沢登美美子

キーワード：保育者養成、音楽表現、意識変化、高齢者福祉施設

1. はじめに

本学科の学生は、将来、幼稚園、保育所および小学校の教育に関わる可能性が高い。乳幼児および小学生の音楽教育の重要性は広く認められている。したがって、保育士、幼稚園教諭および教員は、子どもが、表現しようとする心を敏感に受け止められるよう表現力豊かでなければならない。本研究で対象とする授業「子どもと音楽」では、多様な子どもの特性を理解し、柔軟な音楽表現の必要性の理解を深めることを目的とした。しかしながら、本学科に入学してくる学生は音楽経験が豊富な学生ばかりとは限らない。ゆえに、授業の一方法として高齢者福祉施設、特別支援学級および特別支援学校において、学生が音楽を通じて交流を行なう実践を取り入れた。

著者らの既報¹⁾で述べたように、様々な実践先の中でも高齢者福祉施設における交流が学生にとっては、心から楽しむことが出来、音楽の持つ効果を最も体感できたことがわかった。そこで、最初の実践先として、高齢者福祉施設を選んだ。この経験を経たことで、その後に実践した小学校普通学級、小学校支援学級および聴覚障がいのある子どもとの交流に向けて学生の意識に変化が認められたので報告する。

2. 対象と方法

2-1 対象

対象は2012年度後期開講「子どもと音楽」(演習)履修者、人間形成学科1年次生33名である。

2-2 方法

1) 高齢者福祉施設での実践後に提出されたレポートから、実践前と実践後での学生の音楽表現の意識変化を分析。

2) 教材

1. わらべうた

ことばと旋律法が相関関係にある場合が多いわらべうたは、子どもから大人まで覚えやすく、受け入れやすい。ことばの発展の先についてくものが音楽の発展する内容になっている。

2. 手作り楽器

手作り楽器は、平均律的でないさまざまな音源を出すことが出来る。また、演奏する人に合わせて工夫して作ることができ、さらに、言語では表現しきれない心の表出を表現できる可能性を持っている。

3. ボディーパーカッション

ボディーパーカッションは、音源が身体であるために、振動を受け止めやすく音楽の基本であるリズムをもっとも敏感に受け止めることができる。さらに、強弱、やさしさ、はげしさ、軽やかさ、雄大さ、楽しさなど工夫することで、非常に豊かな表現ができる可能性がある。

4. 手話

視覚的に訴え豊かな表現力を表す。

3) 実践内容

- ・表1は高齢者福祉施設での実践当日の流れを示す。
- ・図1は高齢者福祉施設における実践前後の学生の意識変化を示す。

(所 属)

山梨県立大学 人間福祉学部 人間形成学科

表1 高齢者施設での当日の流れ

時間	内 容	学生の動き
5分	うめぼしの歌 ²⁾	初めに代表が簡単な挨拶をする
		1. 入所者さんは輪になり椅子に座っている 2. 学生は音楽に合わせて上体で表現する 3. 入所者さんも学生と一緒に音楽に合わせて表現する
10分	自己紹介	1. 名前、出身地をはっきりと大きな声で言い同時に手話も用いる (自己紹介する学生は手をあげてから言うこと)
	わらべうた「お茶を飲みにきてください」	1. 入所者さんは輪になって椅子に座っている 2. 学生は「お茶をのみにきてください」と歌いながら、輪の内側を歩く 3. 「はい、こんにちは」と歌いながら目の前にいる入所者さんと会釈をする 4. 「いろいろお世話になりました」と歌いながら会釈をした入所者さんの手を取り上下に軽く振る 5. 「はい、さようなら」と歌いながら手を離して会釈をする 6. 2-5の動きを1回ごとに違う人と繰り返す
20分	手のひらを太陽に	1. 2人が一列になれるように入所者さんは移動 (その間に手作り楽器を用意) 2. 学生が手、膝および足の3パートに分かれて叩きながら歌う 3. 入所者さんも学生が歌うのを聞きながら、動かせる手、膝、足を叩く 4. 入所者さんたちに、手作り楽器を渡す 5. 学生が歌い、入所者さんは、楽器で手拍子を打つように叩く
	四季の歌	(体形はそのまま) 1. 手話で表現しながら歌う 2. 手話の一つ一つのことばの意味を説明する 3. 入所者さんも一緒に手話を使い、歌ってもらう
5分	わらべうた「さよならあんなころもち」	1. 入所者さんと向かい合って握手をする 2. 歌が終わったら手を離す 3. 1-2の動きを1回ごとに違う人と繰り返す

3. 結果

実践前

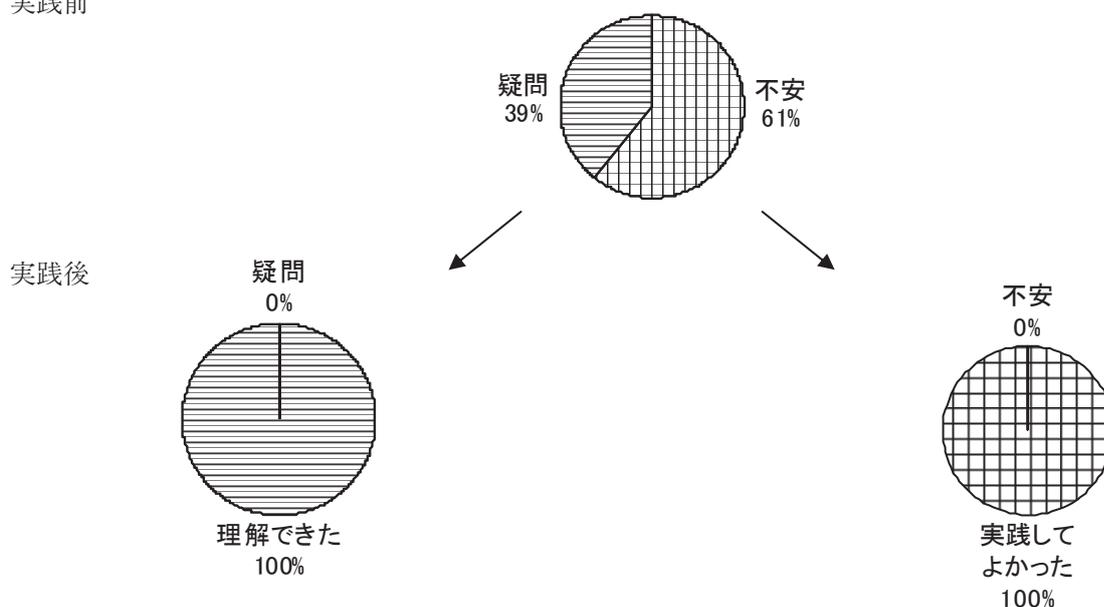


図1 高齢者福祉施設における実施前後の学生の意識変化³⁾

実践後は実践前に比べ100%の学生が良い方向へ変化したことがわかった。以下学生のレポートから実践前後に分け抜粋を示す。

3-1 高齢者福祉施設における実践前の学生の意識(レポートより抜粋)

1) 不安 (61%)

- ①自分達がやることを受け入れて楽しんでもらえるのか不安。
- ②ピアノ伴奏やCDの音楽がなくて不安。
- ③身近に高齢者がいないので、接し方がわからず不安。

2) 疑問 (39%)

- ①この授業で高齢者福祉施設に行く意味がよく理解できない。
- ②手話で歌ったり、表現したりすることに意味があるのか疑問。

3-2 高齢者福祉施設における実践後の学生の意識(レポートより抜粋)

1) 不安について

- ①受け入れて楽しんでもらえた実感できた。
 - ・手を取り合い歌うだけなのに、嬉しそうな顔をして、楽しんでもらえてうれしかった。(9人)
 - ・入所者さんたちは、手話を見て、自分達が動かせる動きのところは一緒に動かしてくれたので、うれしかった。(9人)
 - ・練習した時よりも振りを大きく表現したことで、手を動かす入所者さんが増えてきて、受け入れてもらえたと思ってうれしかった。(5人)
 - ・自分達の作った楽器を興味深そうに眺め、「中になにが入ってるの?」「へーきれいだね」と感心してもらえてうれしかった。(4人)
 - ・手作り楽器を楽しそうに鳴らしてもらえてうれしかった。(4人)
 - ・「さよならあんころもち」の最後の部分「またきなこ」を入所者さんが自然に何回も繰り返し歌い、手を離したくない気持ちが伝わってきてよかった。(2人)
 - ・初めは不機嫌そうにみえた入所者さんが、終わりの「さよならあんころもち」を歌った時には、

笑顔で歌ってもらえてうれしかった。(2人)

- ・ボディーパーカッションに合わせて、一緒に手をたたいたりうなずいたりして楽しんでもらえてよかった。(2人)
- ・一人一人の距離が近いので、相手の表情がよくわかり音楽を楽しんでいる様子がわかった。
- ②伴奏やCDがなくても楽しめた。
 - ・わらべうたは、ピアノ伴奏がなくても、簡単に覚えやすく応用が効き、楽しめた。(4人)
 - ・音楽はピアノや他に楽器がなくても、身体の一部をたたいて歌ったことで、楽しむことが出来、雰囲気でも音でも盛り上がる事が出来てよかった。(4人)
 - ・ピアノ伴奏やCDの音楽がむしろないほうが、一体感があってよかった。(3人)
- ③接し方がわかった。
 - ・手を取り合い、目線を合わせて歌い接することで、お互いに楽しめることが経験できた。
 - ・手拍子をしてくれる人、踊ってくれる人、笑顔でうなずいてくれる人など一人一人その人なりに参加してくれたので、笑顔で接した。
- 2) 疑問について
 - ①高齢者福祉施設で実践する意味が理解できた。
 - ・音楽を通して心と心のコミュニケーションをとることは、本当に素晴らしいことだと改めて気づかされた。(14人)
 - ・この実践で実感できた気持ちが、今後子どもと関わる時に重要になってくるのではないかと気づいた。(7人)
 - ・子ども一人一人の個性を引き出す事ができるような、音楽の取り組みをしていきたいと思うことができた。(2人)
 - ・入所者さんと一緒に音楽をすると、自然に相手に合わせたテンポを考え、相手に伝えるために身振りや歌のことばをはっきり言うようになる。一人一人にあわせた工夫をすることが、保育や教育に欠かせないことだと気づいた。(2人)
 - ・お互いに手を取り合い歌うことで、楽しいという空間ができ、音楽の持つ力が予想以上に大きいことを体感できた。

②手話を使うことの意味が理解できた

- ・手話を使うことで、言葉だけでなく目でも楽しみながらできたので、飽きずに聞いていられたと思った。(3人)
- ・手話を使いながら歌うと、相手の手話も見ながら歌うので、自然に相手に合わせたテンポになった。(2人)

4) その他

- ・自分達が作った楽器を、真似して叩くだけでなく、自由に鳴らしたり、曲に合わせて叩いたりすることで、みんなで曲を作っているように思えた。(9人)
- ・入所さんが実際に手作り楽器を持つと扱いにくいものがあることが良くわかった。(8人)
- ・入所さんも、自然に身体を叩いて歌う姿を見て、みんなで楽しむとはこういうことかと思った。(3人)
- ・入所さんが、簡単かつ単純なメロディーの歌なのに、身体を揺らしたり、表情を和らげたりしながら音の運びを楽しんでいた。その様子を見て、複雑なリズムや和音がなくても、誰かと共有したりすることこそが音楽の原点であり、本質ではないだろうかと思った。
- ・わらべうたは、歌う人の心に合わせて簡単に変えられることができ、どんな年齢でも何人でも一緒に遊べる場所がいいところだと思った。
- ・同じ音楽でも、相手によってテンポを変えたり楽器を変えたりして工夫することで楽しめるのだと思った。
- ・ただ一緒に音楽を楽しむのではなく、心を通わせて音楽を楽しむためには、相手の立場になって考え工夫をする必要があると思った。
- ・音を自分の身体を叩く事で作り、それを合わせてアンサンブルになることはとても楽しく充実するものだと思った。
- ・自ら音を作り上げ、それを共有し楽しむことを体感した。皆と共に音を共有する楽しさを伝えたいと思った。

3-3 職員からの感想

- ・入所さんが、職員以外の人と手を取り、一緒

に歌う機会はないので、全員が喜んでいて、とてもよかった。

- ・わらべうたは、覚えやすく単純なメロディーなので、入所者さんもすぐに覚えられた。
- ・手作り楽器のアイデアは素晴らしく、一緒に楽器作成なども検討していただけるとありがたい。
- ・今回学生が作った楽器をいただきたい。
- ・手話を使用していただき、ゆっくりした話し方や歌い方だったので、聞きやすかった。
- ・一つ一つの手話の説明をしていただきわかりやすかった。
- ・入所さんができる動きが一人一人違うので、学生がボディーパーカッションや手話などいろいろな表現方法を使って歌ってくれたので、入所さんが喜んで参加できた。
- ・ぜひ、また来て欲しい。

4. 考察

「子どもと音楽」の授業において、なぜ、高齢者福祉施設での実践を行なうのか疑問を持っていた学生が多数いた。また、実践前には、様々な不安があった。それは、①わらべうたと一緒に歌って楽しんでもらえるのか、②工夫して作った手作り楽器を楽しんで使用してもらえるのか、③手話および④ボディーパーカッションで歌を楽しんでもらえるのか、など全員が不安や疑問を持っていたことがわかった。不安や疑問の意識変化は以下のようなものである。

- ①「さよならあんころもち」のことばのオスティナート⁴⁾を自然に繰り返し、楽しむ様子を学生は、体験した。学生は単純な身体表現を伴うわらべうたが受け入れてもらえるとは思っていなかったようである。わらべうたは、ことばと旋律法が相関関係にあることが特徴である。さらに、「自然環境、歴史的風土、社会的風習など、要するに、その民族の文化全体と密接な関係の中で育ってきている」⁵⁾ものである。それゆえに、わらべうたが実感に基づいてことばが発展し、表情豊かな音楽に変化したことを体感できた。この経験から、生命力あふれる豊かな表現

方法として、触れ合いながら歌うわらべうたは、コミュニケーション能力を高めるという意識に変化したことがわかった。

- ②学生は、入所者さんと一緒になって音楽を作り上げていく様子を体験できた。この経験から、演奏する人にあわせて、楽器を制作することによって、音楽が共有できることがわかった。入所者さんは手作り楽器を自由に鳴らしたり、曲に合わせて楽しそうに音楽に参加してくれた。
- ③手話は視覚から訴える豊かな表現方法であるが、手話を使うことに疑問を持った学生がいた。しかし、その姿を見て一緒に参加した気持ちになれたことがわかった。さらに、心を通わせて楽しむためには、相手に合わせた表現方法を工夫することが重要だとわかってきた。入所者さんは、口頭と同時に手話をコミュニケーションツールとして使うことで、一緒に手を動かそうとする意欲が芽生えたことが考えられる。
- ④多くの学生は、楽器やCDの伴奏を使用しない音楽経験が少ない。したがって楽器やCDに頼らない音楽活動に不安を感じていた。しかし、ボディーパーカッションの実践によって、楽器やCDに頼らないほうが、入所者さんとの一体感があってよかったと述べている。自分の声で表現する「歌う」ということに、音源を身体で表現するボディーパーカッションを伴うことにより、実感に訴えた表現方法で、コミュニケーションがとれ、音楽を楽しむことができると意識が変化したことがわかった。

以上のように不安や疑問を抱えていたが、実践を行なったことで、音楽表現の意識の変化が認められた。

それは、音楽で触れ合うことで、コミュニケーションがとれたこと。さらに、喜びを感じながら様々な音楽表現ができ、受け入れてもらえたことから明らかになった。多くの学生が、実践後のレポートにおいて「この実践で実感できた気持ちだが、今後、子どもと関わる時に重要になってくるのではないかと思った」と述べていることなどから、この経験を経たことにより、音楽の持つすばらしさを改めて実感したと考えられる。すなわち、

子どもと接する時に、喜びを感じる音楽表現方法を常に考え、音楽の基本である「音楽の心」を伝えていくことの重要性がわかったことが考えられる。

5. おわりに

初めて臨んだ高齢者福祉施設における実践は、音楽経験や基礎知識の少ない学生にとって不安や疑問が多かった。学生は、この経験から、音楽の持つ効果の大きさに気づいた。自分達が表現できる音楽によって、入所者さんと音楽を楽しむ方法を実践した。今後、高齢者福祉施設はもとより更なる能力開発を重ね、子どもの施設および保育現場において、豊かな表現活動に発展することを望みたい。今後の調査として、参加された入所者さんがどのような感想を持ったのか、聞き取りを行ない、さらに、工夫をしていきたい。

謝辞

今回の実習にあたりご協力いただきました2つの高齢者福祉施設の職員の皆様に深く謝意を表します。

注)

- 樋口しずか・沢登美美子(2013)山梨県立大学人間福祉学部紀要8, pp73-83
- the ミュージックセラピー(2008)音楽之友社, vol.01, pp177-184
- アンケートの調査からグラフ化については適切ではないように思えるが、アンケート結果の分析から見るとグラフの通りである。
- 周期的に、(執拗に)繰り返される、多少短い旋律的要素あるいはリズム的要素を指す術語。ラルース世界音楽辞典(1989)福武書店、p274
- 團伊久磨・小泉文夫(2001):日本音楽の再発見 平凡社、p11

Musical Expression suitable for Special Needs: (2)

Conscious Changes in the Musical Expression of University Students Though Practice at Care Facilities for the Elderly

HIGUCHI Shizuka, SAWANOBORI Fumiko

**Key words : Education to be Kindergarten Teachers or Child Care Workers, Musical Expression,
Conscious changes, Care Facilities for the Elderly**